

ぼくじょう なか ま はなし
牧場の 仲間たちの お話

ロバに 乗る

わたしの ^{ははがた}母方の ^{そふ}祖父は、^{のうじょう}農場で いつも オスの ロバを
^{いっとう}1頭 ^か飼っていました。母は ^{はは}子供時代、^{こどもじだい}兄や ^{あに}姉と、^{あね}よく ロバに
^の乗っていました。どの ロバも そうですが、
その ロバも ^{せいかく}がんこな 性格でした。



とき
時には、一度に ^{いちど}二人も ^{ふたり}三人も ^{さんにん}
ロバに ^の乗ろうと しましたが、
ロバは それが ^{だい}大きらいでした！

いえ うら きゅう おが
家の 裏には 急な 丘が あって、
その ちょうじょう ふうしゃ
頂上に 風車が ありました。風車は、
いど みず あ
井戸の 水を くみ上げるために 使います。
それは また、そ ぶん いえ でん き おく
それは また、祖父が 家に 電気を 送る
ちくでん ち じゅうてん つが
蓄電池の 充電の ためにも 使われていました。

きゅう おが のぼ
ロバは、その 急な 丘を 登ると、
こども
子供たちが しがみついて
いられなく なって、すべり落ちて
しまうことに きづ
気付きました。
ひとり お ひとり お
一人 落ち、また 一人 落ち・・・
すぐに みんな いなくなってしまう。
いらい こども の
それ以来、子供たちが 乗ると、
ロバは すぐに おが む
丘に 向かうように
なりました。

まいがい
毎回
うまく いくぞ！

ロバは、き い
気に 入らない ことが あると、
かみついたり けつたり しますが、その ロバは、
べつ ほうほう こども だ
別の 方法で 子供たちを 出しぬいたのでした。

いま
「今、わたしの がしらは、わたしを とり囲む
もの うえ たが あ しんがいやくせいしよ
者の 上に 高く 上げられる。」（新改訳聖書、
しへん い
詩篇 27:6を 言いかえたもの）